

ホスフィンスルホナート配位 Pd 触媒を用いたノルボルネン誘導体の重合 1180213 小松 健人

Polymerization of norbornene derivatives by Pd phosphine-sulfonate complex Komatsu Kento

ポリオレフィン、様々な製品で利用されているが一般的に極性基を持たないため着色性や接着性が乏しい。そこで極性モノマーと共重合することでこれらの性能を改善することができる。2002年に報告されたパラジウム/ホスフィンスルホナート触媒を用いるとオレフィンと極性モノマーの共重合が進行することが分かっている。この触媒に用いられているホスフィンスルホナート配位子はリン原子上の置換基を変化させることで分子量や極性モノマーの導入率を変化させることができる。本研究ではリン原子上のアリール基の構造が重合に及ぼす影響を調べることを目的に、構造の異なる3種類のアリール基を持つ配位子を合成してノルボルネンの単独重合およびノルボルネンとノルボルネンカルボン酸メチルとの共重合を行いこれらの置換基による影響を検討した。

